

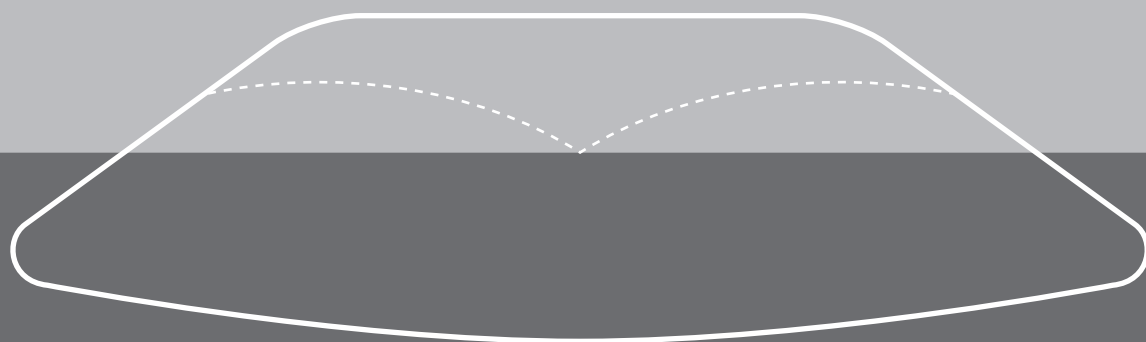
第39回

都々逸全国大会

作詞の部

作品集

第39回都々逸全国大会実行委員会



ごあいさつ

第三十九回都々逸全国大会作詞の部にご応募いただき、誠にありがとうございました。

都々逸は、常陸太田市に生まれた都々一坊扇歌により確立されました。今大会も全国各地から個性豊かで素晴らしい作品が多く寄せられ、都々逸が当市と全国を繋ぐ架け橋となっていることを強く感じます。長年都々逸を愛好されてい一般の部の方のもとより、学生の部応募者の皆様にも今回を機に、創作意欲を高め、文化活動の担い手として、今後とも都々逸節の発展に寄与していただきたいと思います。

本大会の開催にあたり、ご尽力いただきました関係者の皆様には心より厚く御礼申し上げますとともに、皆様の益々のご健勝を祈念いたしまして、ごあいさつとさせていただきます。

第三十九回都々逸全国大会

大会長 藤田 謙二

次

24

一般の部

◆宿題句「技」「術」「革」「新」

賞区分	氏名・筆名	住 所
どどいつ大賞	星 野 和 代	茨城県ひたちなか市
どどいつ準大賞	仙 太 郎	東京都羽村市
	上 原 きよみ	兵庫県多可郡多可町
	上 原 敏 伸	兵庫県多可郡多可町
どどいつ賞	稲 葉 建 正	茨城県桜川市
	う ら ら	茨城県つくば市
	王 田 和 子	茨城県笠間市
	酒 川 千鶴子	茨城県石岡市
	風 穴 尚 紀	埼玉県さいたま市
	富 山 邦 男	茨城県那珂市
佳 作	本 多 しげる	愛知県岡崎市
	久 米 初 枝	東京都台東区
	岡 野 美恵子	東京都豊島区

◆自由句

賞区分	氏名・筆名	住 所
どどいつ大賞	石 塚 芳 華	茨城県石岡市
どどいつ準大賞	稲 葉 建 正	茨城県桜川市
	後 藤 園 生	神奈川県川崎市
	宮 崎 明 美	埼玉県春日部市
どどいつ賞	助 川 浩 史	茨城県石岡市
	山 口 龍 一	三重県伊勢市
	根 岸 おと弥	埼玉県さいたま市
	王 田 侘 介	茨城県笠間市
	富 山 邦 男	茨城県那珂市
	真 美	埼玉県朝霞市
佳 作	上 原 きよみ	兵庫県多可郡多可町
	小川野 蛙	茨城県石岡市
	齋 道	茨城県稲敷郡美浦村

宿題句

お題

「技」

「術」

「革」

「新」

どどいつ大賞

土用綿入れ 一針技は 母が残した ちゃんちゃんこ

評 お母さんが一針一針丁寧に縫ったちゃんちゃんこ大切な思い出の品だがもう誰も着ない。IT・AI万能の現代に時代遅れになった我が身と重ね合わせた深い感慨の一句。

茨城県ひたちなか市 星野 和代

どどいつ準大賞

生成AI 夢ある技術 サムライ英知が 試される

評 世界水準に一周遅れと言われる日本のAI開発・・・これからが正念場ですね。

東京都羽村市 仙太郎

踊る姿は 手足の妙技 冴えて母娘の 夏まつり

評 夏祭で母娘が連れ立って踊る姿・・・いいですねえ。

兵庫県多可郡多可町 上原 きよみ

押して引いての 駆けひきよりも なみだ一すじ 流す技

評 恋愛・夫婦・ビジネス、いろいろな場面が想定される幅のある作品。締め「技」が効いています。

兵庫県多可郡多可町 上原 敏伸

石屋の親方 新弟子なくて 石仏みたいな 顔で居る

評 技術を継承する弟子のいない石屋の親方の頑固な不安顔が目に見えます。

茨城県桜川市 稲葉 建正

今日の夜勤は 新人ナース わたしの不安に かけつける

評 深夜不安な気持ちで押したコールボタンに駆けつけてくれる新人ナース、嬉しいですね。

茨城県つくば市 うらら

大阪万博 大屋根リング 科学技術の 輪をつなぐ

評 今年の大阪万博、各国の文化と共にく様々な新技術を巡って活発な交流し明るい未来への期待。

茨城県笠間市 王田 和子

お お た

常陸太田都々逸 市民の特技 夢は世界で 謡の会

評 都々逸のメツカ常陸太田、ここから発信するエネルギーがさらに広く届きますよう祈ります。

茨城県石岡市 酒川 千鶴子

こがねいろ

黄金色した 稲穂が実る 待ってた新米 早く来い

評 黄金色の稲穂から生まれるピカピカの新米。米騒動の今年はその有難味が一段と。

埼玉県さいたま市 風穴 尚紀

昭和マンガで 夢みた世界 叶う令和の 技術力

評 昭和の漫画で未来予測的に描かれたAIロボットや宇宙旅行が次々に現実味を帯びてきています。

茨城県那珂市 富山 邦男

佳作

誇る日本の 卓越技能 世界各地で 光る技

評 様々な分野で日本の技術・技能はまだまだ健在。これからも頑張って欲しいですね。

愛知県岡崎市 本多 しげる

米の高値に 見兼ねた父の 送る新米 親心

評 米どころのお父さんから届いた新米、今年はいつもとより何倍も美味しかったでしょう。

東京都台東区 久米 初枝

術後のリハビリ 頑張る父の 笑顔弾ける 孫の声

評 大きな手術の後のしんどいリハビリ、可愛い孫の応援が何よりの励ましく思わず笑顔が。

東京都豊島区 岡野 美恵子

新しき 事へどっぷり 浸りおる 感謝と工夫で 我は生きおる

茨城県常陸太田市 大須賀 文恵

いずれ無くなる 座布団畳 三ツ指突く技 忘られる

埼玉県比企郡滑川町 健二

言ったことへの 責任とらず 新市長でも 古狸

静岡県静岡市 小川 健治

謡で綴った^{うた} 遅咲きの恋 あってもいいよね 老の技

岐阜県養老郡養老町 植田 芙美子

おコメづくりは 田下駄や田ぶね 植へも刈るのも 術あらた

茨城県水戸市 栗原 松枝

IT細胞 この灯火よ 煌き放つ 技も新た

茨城県水戸市 栗田 修治

新たな技術よ 未来を拓く ここに万博 輪を広め

茨城県水戸市 大部 弘美

チアーガールの 揃いの技に 新人ガール 今に見て

東京都中央区 村上 妙

異常気象 天も真似るか 革新するも ほどほどに

茨城県水戸市 井上 哲雄

技術革新 昭和に生きた 仕事仲間の 合言葉

茨城県石岡市 助川 浩史

顔も知らない ネットの仲間 選挙で新人 躍り出る

三重県伊勢市 山口 龍一

地震猛暑に 大型台風 自然災害 術^{すべ}はない

岐阜県安八郡神戸町 早津 郁男

十年励めば モノにはなると 八十路新たに 習い事

愛知県春日井市 吉福 康郎

奇想天外 輝く瞳 明日に羽ばたく 子等の技^{わざ}

茨城県常陸太田市 福地 吉夫

ここは新宿 ふるさと想う 君は今でも 笑顔かい

東京都練馬区 今内 優子

借りた田んぼの 手植えが実り 香る新米 炊飯器

茨城県日立市 佐藤 雅雄

引く手あまたの AI分野 世界制覇へ 新技術

山口県下関市 亀田 正史

確かな技術が 寡黙な人の 代わりに喋って 得る評価

静岡県浜松市 澤渡 延代

一人暮らしに AI技術 まるで相棒 受け答え

茨城県石岡市 若色 茂

旨いご馳走 時短で決める レンジ活用 極み技

茨城県石岡市 坂下 靖鈴

長き競って 板前五人 これぞ芸術 桂剥き

茨城県石岡市 福田 泰夫

技の習いは 十五の春に 腹の弱虫 鳴いている

茨城県常陸大宮市 鈴木 茂

年の娘に 技など問いて 嫁の道具に 持たせたい

茨城県常陸大宮市 鈴木 良子

技を磨きて 新鮮タネの 奇術楽しい 目くらまし

茨城県常陸太田市 鈴木 盛雄

昭和100年 何時しか過ぎて 研究進む 新技術

東京都江戸川区 高橋 由香

つまびく系の音 惹かれる節に 術なく訪れ 待つ一夜

茨城県稲敷郡美浦村 霞天

君を射止める 秘術を熟慮 面と向かえば 金縛り

茨城県水戸市 芝間 靖秋

技術進んで ロボット嬢が あなた好きよと 言う日来る

茨城県石岡市 石塚 芳華

日の出日の入り 不思議な巡り 次の新年 干支は午

愛知県名古屋市 福田 良兵

ここの節目は 大事にしたい スーツ新調 凝った色

東京都江戸川区 葉山 伯丈

酷暑居座る 箒を立てる せめて技あり 鯛雲

東京都杉並区 佐藤 富貴子

薬を運ぶ ドローン技術 外の国では 火薬つむ

埼玉県さいたま市 根岸 おと弥

技術革新 人工知能 人をあやつる ロボットが

埼玉県越谷市 中田 喜久雄

技をみがいて アイデア努力 新たな日本の 明日を待つ

千葉県柏市 井上 雄子

技術革新 AI導入 行き着く先は リストラか

千葉県柏市 森田 純

家の改革 骨董無くし キレイさっぱり 光る庭

茨城県常陸太田市 平 由定

技術革新 とり残されて わからぬ事が わからない

静岡県三島市 神戸 孝子

いつもチャックを 閉めずに提げる あなたの手ずれの 革靴

神奈川県川崎市 後藤 園生

京都鴨川 石積みアート バランシングの 技の妙

茨城県笠間市 王田 侘介

技を磨いて いつかはきつと 夢を叶えて 見せてやる

茨城県那珂市 小笠原 順一

スマホ片手に 広がる世界 技術の進歩 追いかける

茨城県常陸太田市 宇野 周治

右手左手 巧みな技に つなぐ伝統 心意気

茨城県常陸太田市 宇野 隆子

ここで生まれた 漆や和紙が 千年継なげる 技を生む

茨城県石岡市 小川野 蛙

軒に杉玉 新酒の便り 技を称えて 出荷待つ

埼玉県加須市 松村 有子

猛暑のりこえ 豊かな実のり 技術革新 ききんなし

茨城県桜川市 木村 隆一

技術すすんで リモコンそうさ み田に入らず 早苗植え

茨城県桜川市 木村 隆一

鄙の田んぼで 新米穫れた 今年都へ 大移動

茨城県稲敷郡美浦村 齋道

神と称えて 特攻と散った 伯父を偲ぶか 新松子

岐阜県揖斐郡大野町 武揚

「母しゃんみやげ」と 開いた手には 子なりの技なる ゲンゴムシ

埼玉県春日部市 滝口 美登里

種の見えない 奇術の巧み 答えさがしは 夢の中

埼玉県蓮田市 森 純通

誰が相手の じゃんけんぽんも 5本の指だけ 技はなし

埼玉県春日部市 栗田 智枝子

年はとっても 鍛えた技は いくつになっても 錆はせぬ

埼玉県春日部市 風穴 倭文字

何も術なく 隣りの部屋で 頑張るあなたを 見つめてる

埼玉県春日部市 宮崎 明美

棚に溢れる 秋穫り野菜 並ぶ新米 豊の駅

茨城県那珂市 高田 愛

津軽曲弾き 心に響く 弾いたその手に 技がある

茨城県常陸大宮市 猿田 多真姫

演技派ぞろいの PTAで 気圧されまんまと ババをひく

埼玉県朝霞市 真美

テレビAI エーアイ 世の中スマホ 世界競争 新アプリ

茨城県ひたちなか市 大藪 壽美

物価高騰 こうとく いつまで続く 万能AI 術もなし

茨城県那珂郡東海村 小野寺 紀夫

新たな「五感」と 技能を学び 楽しむ事が 若さ故

茨城県日立市 橋本 よし子

自由句

どどいつ大賞

父母のいた郷 瑞穂の里に 父のTシャツ 着た案山子

評 久しぶりの故郷へ迎えてくれたのはお父さんが生前着ていたTシャツを纏った案山子、懐かしさがジーンと沁みます。

どどいつ準大賞

一家団欒 おトーフ鍋へ 箸が笑いを 釣り上げる

評 家族で鍋を囲んだ夕食へ箸を運びながらも楽しい会話と笑いが弾む幸せな雰囲気伝わってきます。

単語で答える 夫は置いて チャットGP Tに訊く

評 何を訊いてもぶっくらぼうで要領を得ない亭主と比べ、どんどん進歩するAIの方がずっと頼りに。

川の向こうで 愛しい人が ついて来るなど 笑ってる

評 葬儀の直後でしょうか、深い愛情でつながったご夫婦の思いがしみじみと感じられます。

茨城県石岡市 石塚 芳華

茨城県桜川市 稲葉 建正

神奈川県川崎市 後藤 園生

埼玉県春日部市 宮崎 明美

ひばり裕ちゃん バブルの景気 そんな昭和が 遠くなる

評 本当に・・・後に大きな傷を残したバブル景気すら懐かしく思えるほど昭和は遠くなりましたね。

茨城県石岡市 助川 浩史

猫も夫も 朝から留守で 座蒲団ふっくら 秋日和

評 亭主も猫も出かけた秋日和の静かな縁側、ふかふかの座蒲団で一人のんびりお茶をく至福の時ですね。

三重県伊勢市 山口 龍一

じしんのふあんと おおみずねっぱ せいじふしんに こここまい

評 地震・豪雨・猛暑と荒れる自然への不安や口先政治への不信、古古古米放出くらいでは収まりません。

埼玉県さいたま市 根岸 おと弥

古古古古古古古 古古古古古古古 古米令和の 米騒動

評 ずいぶん古を並べましたね、そんな古い米はありませんが、今年の大騒ぎをよく表しています。

茨城県笠間市 王田 侘介

見舞する人 されてる人も つくり笑顔の 思いやり

評 「思ったより元気そう！」 「ええ、大丈夫」 一つの世も繰り返されるお互いの気遣い。

茨城県那珂市 富山 邦男

外じゃ吐けない 弱音を今宵 AI相手に こぼしてる

評 AIに愚痴を聞いてもらおうそんなシーンがだんだん増えていきそうですね。

埼玉県朝霞市 真美

佳作

朝のひと時 二人の会話 どこに貼るのよ この湿布

評 喧嘩しながらも仲の良い熟年(?)夫婦の朝の微笑ましい会話。

兵庫県多可郡多可町 上原 きよみ

戦後昭和を 夢中で生きた 姑の青春 聴いた夏

評 必死に生きた戦後昭和期に青春時代を過ごした義母さんからそんな話を聞ける嫁姑関係くいいですね。

茨城県石岡市 小川野 蛙

辺鄙窮まる 我が里なれど 俚謡うたの文化の 発信地

評 そう、俚謡・都々逸の良さをもっと広く知ってもらうために、発信し続けることが大切です。

茨城県稲敷郡美浦村 齋道

笑いあり 友との会話 食事をしたり 年は老いても 心は若い

茨城県常陸太田市 大須賀 文恵

昭和百年 戦死の遺影 咽ぶ空耳 終戦日

埼玉県比企郡滑川町 健二

日本平は 家から五軒 ここを下れば 駿河湾

静岡県静岡市 小川 健治

世界共通 平和の願い 夢を未来の 子ども達

愛知県岡崎市 本多しげる

「きっと来てね」と 心に叫ぶ 知らぬ顔した 秋の月

岐阜県養老郡養老町 植田 芙美子

笑顔足もと 会話もはずむ 親し睦まじ 影法師

茨城県水戸市 栗原 松枝

100年坂よ 戦禍もくぐり 喜怒も哀楽 万華鏡

茨城県水戸市 栗田 修治

盤上熱戦 あの歩がと金 肖^{あやか}りたいは 変わり身よ

茨城県水戸市 大部 弘美

閉店します お詫びの札に 米寿夫婦の 心根が

東京都中央区 村上 妙

おもてなしなら 日本にまかせ 思い出いっぱい 帰国^との途

茨城県水戸市 井上 哲雄

恋に焦^{ひとよ}がれて 一夜の逢瀬 朝の別れは 尚辛い

岐阜県安八郡神戸町 早津 郁男

男手消えたが 苦労も何の 母へ希望の 子が育つ

愛知県春日井市 吉福 康郎

鳥も語らう 水辺の集い 流れ清らな 源氏川

茨城県常陸太田市 福地 吉夫

粹なことなど 言えないわたし 野暮でいいから 君が好き

東京都練馬区 今内 優子

旅を楽しむ ストープ列車 釧路湿原 鶴の舞

茨城県日立市 佐藤 雅雄

議員めざして 遊説^{ゆうぜい}すれど 御為^{おため}ごかしの 腹の内

山口県下関市 亀田 正史

昔の家計簿 繰る指止まる 日記以上の 雄弁さ

静岡県浜松市 澤渡 延代

曾孫抱いてる 婆さま見れば 身分財産 越えた幸

茨城県石岡市 若色 茂

眠り覚めれば 羽まで焦げる 蟬が戸惑う 暑い夏

茨城県石岡市 坂下 靖鈴

入れ歯老眼 難聴だけど 口は八丁 手も然り

茨城県石岡市 福田 泰夫

母は小柄で 素朴な戦士^と 子供心を 熱くする

茨城県常陸大宮市 鈴木 茂

赤い沢蟹 ほろ酔い気分 前に行かずに 横歩き

茨城県常陸大宮市 鈴木 良子

人とロボットの 未来のカタチ 心通じる 友となる

茨城県常陸太田市 鈴木 盛雄

祭り囃子の 鳴る日は楽し 新調服着る 嬉しい日

東京都江戸川区 高橋 由香

美魔女ずらりの 同窓会に出れば 己が見る目の 無さに泣く

茨城県稲敷郡美浦村 霞天

会いたさ見たさに 暖簾をくぐり 都々逸唄えば 朝月夜

茨城県水戸市 芝間 靖秋

騎馬戦挑んだ 学園広場 佇てばかすかに 関の声

東京都羽村市 仙太郎

ふくらむ想いを 声には出せず 吐息続けて 二つ三つ

兵庫県多可郡多可町 上原 敏伸

季節狂いも 秋虫生きて 夜長涼声 夢心地

愛知県名古屋市 福田 良兵

上がらないよう 人の字吞んで 歌うカラオケ 大真面目

東京都江戸川区 葉山 伯丈

命の一句 トマトが誉める だから楽しい 畑仕事

東京都杉並区 佐藤 富貴子

春に蝶呼ぶ 菜の花よりも 蜂に一途な 寒椿

埼玉県さいたま市 根岸 一弥

地震津波に 猛暑に日照り 天の怒は 極まれり

埼玉県越谷市 中田 喜久雄

推しの勝負に 乱れた髪に どすこいどすこい 惚れなおす

千葉県柏市 井上 雄子

昔望んだ 自由と時間 今じゃどちらも 持て余し

千葉県柏市 森田 純

海で生まれて 絵を描き髪切り 山へ引越し 今ヤマ場

茨城県常陸太田市 平 由定

よせばよかった バンジージャンプ 常陸太田の 肝だめし

静岡県三島市 神戸 孝子

今日は割り勘 いってほめても 君の笑顔に 負ける僕

茨城県つくば市 うらら

汗に塗れた 日本の空に 秋が恋しい 彼岸花

東京都台東区 久米 初枝

夏の余韻を あなたに想い 風の香りも 悩ましい

茨城県那珂市 小笠原 順一

古米古古古 古古古古古 小泉農相 コケコッコ

茨城県笠間市 王田 和子

稲穂揺られて 夜空に光る 実り願って 姉妹都市

茨城県常陸太田市 宇野 周治

夜空色どる 大輪の花 赤や緑が 咲き競う

茨城県常陸太田市 宇野 隆子

迷ううれしき 鏡の中に 背負うピンクの ランドセル

茨城県ひたちなか市 星野 和代

右手左手 頭もひねり 楽器演奏 習い初む

埼玉県加須市 松村 有子

年はとっても まだまだ行ける 大型重機 のりこなす

茨城県桜川市 木村 隆一

年はとっても まだまだ行ける 八十四才 年男

茨城県桜川市 木村 隆一

常陸太田市 弥栄祝う 三十九回 ありがとう

茨城県石岡市 酒川 千鶴子

防空壕から 這い出た虫が 八十年を 移り住む

岐阜県揖斐郡大野町 武揚

止めてくれるな 卒寿の酒を 我慢辛抱 わしゃ好かぬ

埼玉県春日部市 滝口 美登里

「あなたバカね」の 心が読めず 本気で怒った 馬鹿なオレ

埼玉県蓮田市 森 純通

お骨になっても 変わらぬ愛で 朝まで一緒に 床の中

埼玉県春日部市 栗田 智枝子

術後の経過も 上々なれば さし込む朝日に 瞳がうるむ

埼玉県春日部市 風穴 倭文子

丸い輪の中 線香花火 笑いのかけらが パチパチと

埼玉県さいたま市 風穴 尚紀

いつも謙遜 している人が ペット自慢に 孫自慢

茨城県那珂市 高田 愛

渋いお方も 一皮剥けば 甘さしっとり 吊し柿

茨城県常陸大宮市 猿田 多真姫

味噌汁うまいが みんなの記憶 母の笑顔と 割烹着

東京都豊島区 岡野 美恵子

扇歌都々逸 唄って踊る 未来永劫 みなで行く

茨城県ひたちなか市 大藪 壽美

熱波続くよ 今年の日本 田んぼのカエル ほてり顔

茨城県那珂郡東海村 小野寺 紀夫

友の素朴な すがおの下に そっと芽ばえた 愛の花

茨城県日立市 橋本 よし子

私の人生 苦勞もあつた 都々逸唄って 幸せね

茨城県日立市 萩谷 きみ江

学生の部

◆宿題句「技」「術」「革」「新」

賞区分	氏 名	学校名	学 年
どどいつ賞	田 代 美 織	常陸太田市立瑞竜中学校	2 年
	安 島 直 人	常陸太田市立瑞竜中学校	3 年
	岩 間 莉 乃	常陸太田市立金砂郷中学校	3 年
	植 田 侑希乃	常陸太田市立金砂郷中学校	3 年
	斉 藤 栞 菜	常陸太田市立金砂郷中学校	3 年
	榊 優 奈	常陸太田市立金砂郷中学校	3 年
	新 島 奏 音	常陸太田市立里美中学校	3 年
	齊 藤 連	牛久市立牛久第一中学校	2 年
	岩 田 美 綺	茨城県立石岡第二高校	3 年
	川 嶋 唯 愛	茨城県立石岡第二高校	3 年

◆自由句

賞区分	氏 名	学校名	学 年
どどいつ賞	東海林 絢沙斗	常陸太田市立峰山中学校	2 年
	清 水 佑多郎	常陸太田市立金砂郷中学校	3 年
	鈴 木 玲 奈	常陸太田市立金砂郷中学校	3 年
	立 原 佳 音	常陸太田市立金砂郷中学校	3 年
	関 根 彩 乃	常陸太田市立水府中学校	3 年
	岩 田 美 綺	茨城県立石岡第二高校	3 年
	柴 美 咲	茨城県立石岡第二高校	3 年
	中 田 美 冬	茨城県立石岡第二高校	3 年
	野 澤 昊 聖	茨城県立石岡第二高校	3 年
	吉 岡 華 穂	茨城県立石岡第二高校	3 年

宿題句「技」「術」「革」「新」

新しい日々 わくわくしてる 私を待つのは 革の靴

常陸太田市立瑞竜中学校二年 田代 美織

予選敗退 くやしいけれど 次へとつなぐ 新チーム

常陸太田市立瑞竜中学校三年 安島 直人

オリンピックで ねらうはメダル 技をみがいて 新きろく

常陸太田市立金砂郷中学校三年 岩間 莉乃

技術革新 便利な未来 みんなが望む 平和の輪

常陸太田市立金砂郷中学校三年 植田 侑希乃

新たな発見 私はできる やればできるよ 何事も

常陸太田市立金砂郷中学校三年 斉藤 栞菜

移る時代に 合わせて変わる 新たな伝統 つないでく

常陸太田市立金砂郷中学校三年 榊 優奈

昨日の壁を 乗り越えたくて 技を盗んで 強くなる

常陸太田市立里美中学校三年 新島 奏音

A I 技術 発展しても 人の心は 変わらない

牛久市立牛久第一中学校二年 齊藤 漣

筆を片手に 世界を描く これが私の 芸術だ

茨城県立石岡第二高校三年 岩田 美綺

調理検定 時間と勝負 技術磨いて また挑む

茨城県立石岡第二高校三年 川嶋 唯愛

自由句

風に吹かれて 草木がゆれる 止まることなき 風の歌

常陸太田市立峰山中学校二年 東海林 絢沙斗

細くみじかい 人差し指で 夜空に描いた オリオン座

常陸太田市立金砂郷中学校三年 清水 佑多郎

昔見ていた あの日のテレビ 今は見れない コマーシャル

常陸太田市立金砂郷中学校三年 鈴木 玲奈

夏の夜空に 色とりどりの キレイな花が 咲きほこる

常陸太田市立金砂郷中学校三年 立原 佳音

梅雨のあじさい 田んぼの緑 セミの鳴き声 夏がきた

常陸太田市立水府中学校三年 関根 彩乃

髪にリボンを 飾って君に 言って欲しいよ かわいいね

茨城県立石岡第二高校三年 岩田 美綺

ずっと気になる スマホの画面 彼の返信 待っている

茨城県立石岡第二高校三年 柴 美咲

君の姿を 見つけて思う やっぱ好きだな 君のこと

茨城県立石岡第二高校三年 中田 美冬

米の高騰 動かぬ政府 僕の一票 生きるのか

茨城県立石岡第二高校三年 野澤 昊聖

今の気持ちに リボンをかけて 君に贈ろう サプライズ

茨城県立石岡第二高校三年 吉岡 華穂

第三十九回都々逸全国大会 作詞 学生の部

▲みなさんへ▼

今回も、都々一坊扇歌師を生んだ地の若い皆さんが作られた都々逸作品に接し、とても嬉しく選をさせてもらいました。寄せられた皆さんの作品は、どれも日頃の生活のなかで感じた気持ちを素直に表現する詩心に溢れ、読みながらとても明るい気持ちになりました。

これからの成長が楽しみな皆さんに一つだけ期待を込めたお願いがあります。皆さんの作品のなかに、内容は素敵なのですがこれに節をつけて唄おうとするとちょっと唄にくい作品がいくつか見受けられました。民謡から生まれた都々逸には、唄いやすくするために、「七七七五」の三つの七にはそれぞれ順に「三十四（または四十四〥八でもよい）」「四十三（または二十五）」「三十四（または四十四〥八）」というもう少し細かいリズム上の原則があります。実は、初めて選を担当した昨年と同じ問題があったので、今年はこの原則を応募用紙の上部に図解で示したのですが十分伝わらなかったようで、来年はさらに改良したいと思います（今年の選でも、リズム上の問題が軽微で内容的に良い作品をいくつか入選句に含めました）。

「素直な詩心」を大切にしつつこうした技術的な面でもレベルアップした作品が来年以降も多数寄せられることを今から楽しみにしています。

小 野 桂之介

総 評

小 野 桂之介

第三十九回都々逸全国大会のご開催、おめでとうございます。

江戸期に都々一坊扇歌師が生んだ都々逸は、今も日本文化の大切な一部を成しております。扇歌師生誕の地である常陸太田市が、関係各位のご尽力により長年にわたり盛大な都々逸全国大会を催されておられることに、都々逸をこよなく愛する一人として心から敬意を表し感謝申し上げます。

この第三十九回大会では、「一般の部」と「学生の部」共に、昨年を上回る多くの作品が寄せられ、選者としても嬉しく楽しく選をさせていただきました。

一つ残念なことは、素敵な内容を詠みながらリズム（節ごとの音数）が整っていないために選から外さなければならなかった応募作品がいくつか散見されたことです。学生の部の講評でも触れましたが、来年はこの点をより明確に注意喚起するよう工夫したいと考えております。

この伝統ある都々逸全国大会が今後さらに多くの皆さんのご参加を得てますます発展して行きますよう、心からお祈り申し上げます。

小野先生プロフィール

一九四〇年 東京都文京区生まれ
一九六三年 慶應義塾大学工学部管理工学科卒業
一九六五年 同大学院工学研究科修士課程修了
一九六八年 同大学院工学研究科博士課程単位取得
一九七〇年 ハーバード大学ビジネス・スクールITP修了
一九八三年 工学博士（慶應義塾大学）

一九六五年 慶應義塾大学ビジネス・スクール助手
一九八四年 同大学院経営管理研究科兼ビジネス・スクール教授
一九九七年～二〇〇一年 同研究科委員長兼ビジネス・スクール校長
二〇〇五年～ 慶應義塾大学名誉教授
二〇〇五年～二〇一〇年 中部大学経営情報学部部長兼大学院経営情報学研究科長
二〇〇七年～二〇一〇年 中部大学学監
二〇一〇年～二〇一四年 中部大学副学長
二〇一一年～二〇一五年 学校法人中部大学理事
二〇一五年四月～ 中部大学名誉教授
この間 一九七三年 アジア経営大学院訪問教授

現在

慶應義塾大学名誉教授
中部大学名誉教授
YKK（株）社外取締役

著書

経営学関連著書多数のほか、現代都々逸を紹介する『都々逸っていいなあ』〔角川書店二〇二一年〕および句集『蝸牛』〔角川書店二〇一七年〕がある。



磯部見ぼり

ぼくは

風を吹かす

気がかり

都々逸

第三十九回都々逸全国大会作品集

編集 第三十九回都々逸全国大会事務局

発行者 第三十九回都々逸全国大会実行委員会

大会長 藤田 謙二

印刷所 山口写真製版印刷

問い合わせ

第三十九回都々逸全国大会事務局

(常陸太田市教育委員会文化課内)

三三・〇〇五五

茨城県常陸太田市西二町二二〇〇番地

電話 〇二九四・七二一・三二〇一

本書の全部又は一部を無断で複写（コピー）することは、著作権上の例外を除き禁じられています。

主催 第39回都々逸全国大会実行委員会

協賛



明治安田生命保険相互会社

常陸太田産業振興(株)

(一財)里美ふるさと振興公社

